

令和6年度 第2回

板橋区ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金実施要領

(令和6年8月21日産業経済部長決定)

申請書受付期間: 令和6年8月26日(月)～令和6年9月24日(火)

(予算上限に達し次第終了)

※申請書類を提出する前に必ずご連絡ください。事前相談の無い書類は受付できません。

【お問い合わせ・提出先】

板橋区 産業経済部 産業振興課 工業振興係

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-65-6 板橋区情報処理センター5F

午前9時～午後5時まで(土日祝日を除く)

Eメール: sg-senryaku@city.itabashi.tokyo.jp TEL:03-3579-2193

●申請書類: 正本1部をメールで提出

申請書類(1)～(3)、(4)⑧は、板橋区のホームページよりダウンロードしてください。

- (1) 板橋区ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金交付申請書(第1号様式)
- (2) 事業計画書(1) 交付申請書の別紙1・別紙2
- (3) 誓約書
- (4) その他添付書類一覧

①	(法人) 法人登記事項証明書(履歴事項全部証明) (個人) 開業届	⑤	決算報告書一式の写し(直近3期分) ・最初の決算期を迎えていない場合は不要
②	(法人) 法人住民税・事業税の納税証明書(直近分) (個人) 個人事業税の納税証明書 ・最初の決算を迎えておらず提出できない場合は、 個人住民税の納税証明書 ・令和5年度(令和4年中の所得)のもの	⑥	賃貸借契約書の写し ・事業用として賃貸借契約をしていること ・申請時点で契約が未了の場合、契約が完了し次第速やかに提出すること
		⑦	許認可証等の写し(必要な業種の方のみ)
②、	(法人) 本店が区外の方 (個人) 住所が区外の方 板橋区に納付した住民税(事業所課税)の納税証明書(均等割の5000円)も提出	⑧	事業者要件「ア」でお申込みの方 プレゼンテーション資料 ・区HPから様式をダウンロードし作成
③	補助対象物件の図面等 ・事務所や店舗のレイアウトが分かるもの。 ・Wordなどで自作した物も可	⑨	事業者要件「イ」でお申込みの方 ・実践型創業マスタースクール受講を証する文書 ・未了の場合、受講後速やかに提出すること
④	事業の概要が分かる資料 ・パンフレット・HP・予約サイトの画像など	⑩	事業者要件「ウ」でお申込みの方 板橋区企業活性化センターを退去した証明書

※①、②は、発行日から3か月以内のもの

1 目的

板橋区内で新しい技術及び新しいビジネスモデルにより急成長をめざすベンチャー企業並びに創業間もない起業家に対して賃料の一部を補助し、創業期の経済的負担の軽減を図ることで、区内における創業を促進し、もって区内産業の振興及び雇用の創出に資することを目的とします。

2 補助対象者(事業者要件)

この補助金の対象となる者は次に掲げる全てを満たす者としてします。

- (1) 次のいずれかに該当する事業者であること。
 - ア 新技術及び高度な知識を軸に創造的・革新的な製品・サービスを供給する創業15年以内の事業者
 - イ 前年度又は本年度に産業競争力強化法（平成25年法律第98号）に基づく認定を受けた事業者又は本年度中に当該認定を受ける予定であり認定後にその写しを提出できる事業者で創業5年以内の者
 - ウ 板橋区立企業活性化センターの貸オフィス又は板橋区立ものづくり研究開発連携センターの貸工場を退去した日から5年度以内又は本年度中に退去予定の事業者
- (2) 信用保証協会が定める信用保証対象業種であること。
- (3) 中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に規定する中小企業以外の企業（組合形式又はこれに類する形式により、企業の支配を目的とせず投資事業を行うものを除く。）の出資比率が50パーセントを超えないこと。
- (4) 法人の場合、法人住民税及び事業税を滞納していないこと。
個人事業主の場合、個人事業税、住民税、軽自動車税を滞納していないこと。
- (5) 許認可等を要する事業を営む場合はその許認可等を得ている者又は取得予定であり取得後にその写しを提出できる者
- (6) 事務所等を賃借する契約の相手方と、3親等以内の親族又は会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号の2に規定する子会社等若しくは同条第4号の2に規定する親会社等の関係ではないこと。
- (7) フランチャイズチェーンの加盟店等ではないこと。
- (8) 国若しくは東京都又は公益財団法人東京都中小企業振興公社、商工会議所その他これに類する団体から、事務所等の賃料を対象とした補助を受けていないこと。
- (9) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条に規定する営業に該当しないこと。
- (10) 過去に板橋区ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金交付要綱に基づく補助金の交付を受けていないこと。
- (11) 株主、経営権等から、過去に板橋区ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金交付要綱に基づく補助金の交付を受けた者と実質的に同一とみなされる者でないこと。

3 補助対象物件・経費

(1) 補助対象物件

- ・営業日には1名以上の職員が常駐し、補助対象事業に従事する事業所であること。
- ・住居兼用、シェアオフィス、バーチャルオフィス、倉庫等は対象外
- ・事業用として賃貸借契約をしていること。

例) 補助対象物件の賃貸借契約書が以下のようなもの。

- ①事業用建物賃貸借契約書
- ②定期建物賃貸借契約書（事業用）
- ③賃貸借契約書（事業用普通賃貸借）

(2) 補助対象経費

- ・事務所・工場等の賃借料
- ※消費税、共益費、保証金、敷金、礼金、更新料、火災保険料等は対象外

4 補助対象期間

2 補助対象者（1）アの事業者……………最大36か月

2 補助対象者（1）イ・ウの事業者……………最大24か月

※補助対象期間の始期は交付決定日の属する月またはその翌月からです。

※月の途中で事務所等を退去した場合は、退去した月の前月までを補助対象期間とします。

※申請は年度単位で、2年度目以降は毎年4月15日ごろを締切に行っていただきます。
また、補助金の支払いは実績確認後、1年度分を5月～6月頃に後払いします。

5 補助率、補助限度額等

補助対象事業者	補助率（月額）	補助限度額（月額）
補助対象者（1）アに 該当する事業者	補助対象経費の 2分の1以内	20万円
補助対象者（1）イ又はウに 該当する事業者		10万円

※千円未満切捨て

※補助金の額は、補助率又は補助限度額のいずれか低い額

※原則、予算の範囲内で先着順に交付決定します。

6 審査会

補助対象者（1）アに該当するとして申請した事業者については、要件を満たすか否かを判断するために審査会においてプレゼンテーションをしていただきます。

申請書類及びプレゼンテーションの内容を受け、独自性、成長性、意欲、経済波及効果などの各項目の基準点を満たした場合に交付決定します。

7 補助対象事業の変更・中止等

補助事業者は、申請した事業内容に下記に掲げる事由のいずれかが生じることが見込まれる場合、あらかじめ、事業変更等承認申請書（第4号様式）を板橋区に提出し、承認を受けなければなりません。なお、事業の変更が認められた場合でも交付確定額が交付決定額を上回ることはありません。

- （1）補助対象事業の内容を著しく変更しようとするとき。
- （2）補助対象事業の経費の20%を超えて変更しようとするとき。
- （3）補助対象事業を中止しようとするとき。

8 実績報告

補助事業者は毎年度、期日までに事業の実績報告として板橋区に必要書類を提出しなければなりません。

- （1）提出期限

令和7年3月17日（月）まで

- （2）提出書類

- ① 実績報告書（第6号様式）（別紙実施報告書を含む）
- ② 補助対象期間における補助対象物件の賃借料の支払いを証する書類
- ③ 補助対象物件の現況が確認できる写真（外観及び内観）
- ④ 交付請求書（第8号様式）

※必要に応じて書類の追加提出を求める場合があります。

※期日までに実績報告が完了しない場合、補助金を支給できませんのでご注意ください。

9 補助金額の確定

- （1）実績報告書提出後、板橋区が実績報告書類の審査や現地確認等を行い、補助金額を確定します。補助金額確定にあたり、補助対象物件や帳簿類等により、事業の実態が確認できない場合は、補助対象外となります。
- （2）補助金の確定額は、交付決定額を上回ることはありません。

10 補助金の交付

補助事業者は補助金交付額確定後、板橋区に請求書をご提出ください。

請求に基づき補助金を指定口座に振り込みます。（例年5月下旬～6月ごろ）

11 補助事業者の義務

本事業の交付決定を受けた場合は、以下の条件を守らなければなりません。

- （1）補助金交付期間終了後3年間は、毎年度、補助対象であった事業所の操業状況報告書（第11号様式）を下記、添付書類と共に提出し、終了後5年間は必要に応じて本事業に係る調査に協力しなければなりません。

【添付書類】

- ① 納税証明書又は非課税証明書（直近のもの）

- ②決算報告書類（貸借対照表及び損益計算書）直近のもの
- ③その他、報告書に記載された実績や効果を裏付ける資料
- （２）補助金交付期間終了後、５年間は板橋区内で継続して操業するよう努めなければなりません。
- （３）本事業に係る経理について、その収支の事実を明確にした証拠書類を整理し交付年度終了後５年間保存しなければなりません。
- （４）事業の状況の確認のため、予告なく実地検査が入ることがあります。この検査により補助金の返還命令等の指示がなされた場合は、これに従わなければなりません。

12 全体スケジュール

8/26（月） ～9/24（火）	新規申請受付期間（※１）
10月	審査会・書類審査
	補助金交付（不交付）決定通知
補助金交付 決定後	賃貸借契約書の写しを提出 (交付申請時に提出している場合は不要)
11月1日	補助期間開始
令和7年 3月17日(月) まで	実績報告書類の提出（※２）
実績報告書 提出後	審査・交付確定額通知 補助金交付請求 補助金振込（令和7年5月下旬～6月予定）

（※１）交付決定を受け、翌年度以降も引き続き補助金の交付を希望する場合は、各年度に申請書の提出が必要です。申請書の提出が無い場合、当該年度の補助を受けることができません。

（※２）実績報告書類・補助金交付請求書が期限までに提出されない場合、当年度の補助金交付を受けられません。翌年度以降の補助も打ち切りになります。

13 その他

- （１）採択となった場合には、事業概要、企業名、代表者名等を公表する場合があります。
- （２）補助事業者が「補助金等に係る予算の執行に適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）」に違反する行為等（例：他の用途への無断流用、虚偽報告など）をした場合には、補助金の交付決定取消・返還請求、不正の内容の公表等を行うことがあります。
- （３）連絡先等、申請時から変更事項が発生した場合は、速やかに担当にご連絡ください。